

大学名

京都大学(図書館機構)

第60号テーマ
「大学図書館」

表題

京都大学の研究成果・お宝資料を、全世界に無料で公開！

取材対応者(予定) 特色ある取組



図書館機構長
原隆士教授



図書館副機構長
松井啓之教授



附属図書館研究開発室
西岡千文助教

京都大学図書館機構は、1998年の電子図書館設立からはじまり、長きにわたって**オープンアクセス推進による研究支援**に力を入れてきた。2016年からは「**京都大学オープンアクセス推進事業**」を実施しており、「**京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI)**」と「**京都大学貴重資料デジタルアーカイブ**」を活用した取組を進めている。

オープンアクセスとは、学術論文、研究データ、貴重資料などをインターネット上で公開し、誰もが自由に利用できるようにすることを指す。KURENAIは主に論文や研究データなどの研究成果を、デジタルアーカイブは貴重資料をオープン化するプラットフォームである。本学では、教員の研究成果をKURENAI上で原則公開することを定めた「**京都大学オープンアクセス方針**」を2015年に採択している。

KURENAI関連では、出版社発行の学術雑誌に掲載された論文の公開を進めることで、世界中の人々に無料で本学の研究成果を還元している。また、『史林』や理学部英文紀要などの**学内刊行雑誌の大規模な電子化**を行い、これまでに280誌以上を公開した。DOI(論文などの永続的なアクセスを保証し、様々なシステムでデータを利用されやすくする国際的な識別子)の付与、論文タイトルや著者名などの**論文情報の英文化**も行い、教員の研究成果をより効果的に発信している。

デジタルアーカイブ関連では、**IIIF**(複数のデジタルアーカイブの画像をスムーズに閲覧可能にする国際規格)に対応したシステムを構築したほか、**画像情報の英文化**を進め、世界的な利用を促進した。また、利用条件を守れば誰でも自由に画像を利用できるという**公開画像の自由利用原則を先導的に実現**した。



京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ



『肥後国海中の怪(アマビエの図)』

上記取組による成果・評価 など

オープンアクセスに対する取組により、図書館機構は「令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」を受賞した。KURENAIの登録コンテンツ数は20万件以上、年間利用数は790万件以上となり、世界リポジトリランキング(2020年9月版)で世界3位、国内1位という高い評価を得た。デジタルアーカイブは、京都市、慶應義塾大学、国文学研究資料館などの複数機関と連携して電子化・公開を推進し、12万タイトル(160万画像)以上を公開した。なかでも近年注目を集めている『肥後国海中の怪(アマビエの図)』は、公開画像の自由利用原則に基づき広く利用されている本学所蔵資料の代表例である。

COVID-19の流行下でオープン化の意義はますます高まっており、今後も多様な研究成果や資料を世界に発信し、学術研究の創造と発展に貢献することを目指している。

参考URL

- ・ 京都大学図書館機構HP
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>
- ・ 京都大学オープンアクセス推進事業
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content/0/1373844>
- ・ 京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI)
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/>
- ・ 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ
<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>